

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：西九州自動車道 一般国道497号 唐津伊万里道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 九州地方整備局
起終点：起点：佐賀県唐津市中原 終点：佐賀県伊万里市南波多町府招	延長：18.1km	
事業概要：国道497号唐津伊万里道路は、西九州自動車道の一部を担う延長18.1kmの道路であり、九州北西部の広域的な連携を図り、地域の活性化に大きく寄与するとともに国道202号の災害時における代替路線としての機能を有するものである。		
H4年度事業化		H一年度都市計画決定
H10年度用地着手		H14年度工事着手
全体事業費	約655億円	事業進捗率：59%
計画交通量	16,900～21,300台/日	供用済延長：— km
費用対効果 分析結果	B/C：(事業全体) 1.9 (残事業) 6.2	総費用：(残事業)/ (事業全体) 226/721億円 (事業費：181/676億円) 維持管理費：45/45億円
		総便益：(残事業)/ (事業全体) 1,393/1,393億円 (走行時間短縮便益：1,068/1,068億円) (走行経費減少便益：211/211億円) (交通事故減少便益：115/115億円)
基準年：平成22年		
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=6.6 (交通量 +10%) B/C=5.7 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C=5.7 (事業費 +10%) B/C=6.7 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=6.0 (事業期間+20%) B/C=6.2 (事業期間-20%)		
事業の効果等		
①地域間の交流連携の支援 ・沿線都市間の所要時間が短縮（唐津市～伊万里市間：約5分短縮） ②物流の効率化支援 ・広域的な物流の支援（伊万里港から最寄りICへの所要時間短縮：約23分短縮） ・地域ブランドの支援（松浦港（まあじ、さば類の輸送）～福岡IC間の所要時間短縮：約24分短縮） （JA伊万里 梨集荷場～福岡IC間の所要時間短縮：約8分短縮） ③救急医療活動の支援 ・救急医療施設へのアクセス性向上 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口（約5分短縮、4.4万人） ・救急医療活動のアクセス向上便益【約41億円※】 ④地域の防災機能・安全性の向上 ・代替路の確保（災害時の迂回時間の短縮（唐津市～伊万里市間）：約14分短縮） ・現道の通行止め解消便益【約0.10億円※】 ⑤活力ある地域づくりの支援 ・開発計画の支援 ・観光活性化の支援		
※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）		
関係する地方公共団体等の意見 唐津市、伊万里市をはじめとする8市4町の首長・議会議長で構成される西九州自動車道建設促進期成会（会長：唐津市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成22年8月）		
県知事の意見： 早期整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異議ありません。 佐賀県では、地域や産業の活性化のため、地域間の移動時間や距離を短縮するとともに、予定している時間どおりに移動・輸送ができるようになることを目指しており、このため、県内の主要都市を結ぶ走行性の高い広域幹線ネットワークの整備が必要です。今回、再評価される唐津伊万里道路も広域幹線道路ネットワークを形成する道路となっており、引き続き整備を進めていただくため。		
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

当該事業沿線地域である伊万里市では、製造品出荷額が年々増加し佐賀県平均を大きく上回る伸びを示しており、依然として企業進出が進展している状況である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約59%であり、そのうち用地進捗率は約87%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、事業効果を早期発現できるよう、引き続き用地買収を促進するとともに、早期供用に向けて事業を推進していく。

施設の構造や工法の変更等

- ・当面暫定2車線整備に必要な事業費に見直し【約222億円】
- ・新技術採用によるコスト縮減【約1億円】

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。